



平成19年5月31日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 富田芳男
(コード番号 4047 東証第1部)
問合せ先 人事総務部専任部長 浦本邦彦
(TEL. 03 - 3216 - 4561)


平成19年3月期決算・中期経営計画説明会資料の件

当社では、本日5月31日、アナリスト向けに平成19年3月期決算・中期経営計画説明会を開催いたします。

平成19年3月期決算の概要、今後の業績見通し、中期経営計画について説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

平成19年3月期決算・中期経営計画説明会

 関東電化工業株式会社
平成19年5月31日

1

説明内容

1. 19/3決算の概要
2. 今後の業績見通し・中期経営計画

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

関東電化グループ(連結子会社)

(単位:百万円)

	資本金	出資比率 %	H19/3個別売上高	対前年度増減	主要な事業内容
関電興産(株)	10	100.0	5,371	612	化学工業薬品の販売、保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	4,451	△2,078	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業(株)	27	52.9	980	59	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA(株)	2 億ウォン	90.0	6,244	1,182	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限公司	7 百万NTドル	100.0	1,372	444	フッ素系製品の販売

合計	18,420	221
----	--------	-----

関東電化工業株式会社

3

事業の種類別セグメント

名称		内容
基礎化学 品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ピリデン、シクロヘキサノン、シクロヘキサン、シクロヘキシルアミン、ジシクロヘキシルアミン等
精密化学 品事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料等
	フッ素系製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タングステン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、五フッ化ヨウ素、六フッ化リン酸リチウム、フルオロエチレンカーボネート、液晶材料、排ガス処理装置(エフトール)等
その他事業		工場プラント建設、工場設備保全工事、保険代理店業務等

関東電化工業株式会社

4

連結・個別損益の概要

(単位:億円)

連結決算					個別決算			
	H18/3 (倍率)	H19/3 (倍率)	増減	増減率 (%)	H18/3	H19/3	増減	増減率 (%)
売上高	387 (1.21)	408 (1.12)	21	5.6	319	365	45	14.2
営業利益	42 (1.24)	66 (1.07)	24	57.1	34	62	28	82.0
経常利益	44 (1.17)	65 (1.07)	21	47.4	38	61	23	61.0
当期純利益	△0.9 (-)	31 (1.04)	32	-	△4	30	34	-

関東電化工業株式会社

5

連結決算のポイント

(単位:億円)

	H18/3	H19/3	差額
売上高	387	408	21
経常利益	44	65	21
当期純利益	△0.9	31	32

- (1) 売上高は過去最高
 ・基礎化学品事業部門は、渋川工場ソーダ電解停止による販売減があったものの、全体としては増収(+3億円)
 ・精密化学品事業部門は販売数量が価格低下を上回って増収(+39億円)
 ・その他事業は減収(△21億円)
- (2) 経常利益も過去最高
 ・基礎化学品事業部門の営業利益改善(+7億円)
 ・精密化学品事業部門の営業利益増加(+16億円)
- (3) 当期純利益も過去最高
 ・H18/3期は当期純損失であったこともあり、大幅増益

関東電化工業株式会社

6

基礎化学品事業部門

(単位:億円)

	H18/3	H19/3	差額
売上高	106	110	3
営業利益	△9.5	△1.8	7.7

・平成17年8月に渋川工場ソーダ電解を停止したことによる販売減はあったものの、水島工場でのフレークか性ソーダの増産と原燃料価格高騰分の価格転嫁等により、前期に比べ増収となる。

・営業利益は、事業再構築の効果等により、大幅に改善。

・下半期だけで見ると、営業利益は黒字。

関東電化工業株式会社

7

精密化学品事業部門

(単位:億円)

	H18/3	H19/3	差額
売上高	235	274	39
営業利益	50	67	16

・三フッ化窒素は、液晶関係の生産調整の影響や販売価格の低下はあったものの、半導体生産の好調を受け販売数量が大幅に増加。

・六フッ化タンゲストンも半導体生産の好調を受け、前期に比べ増収。

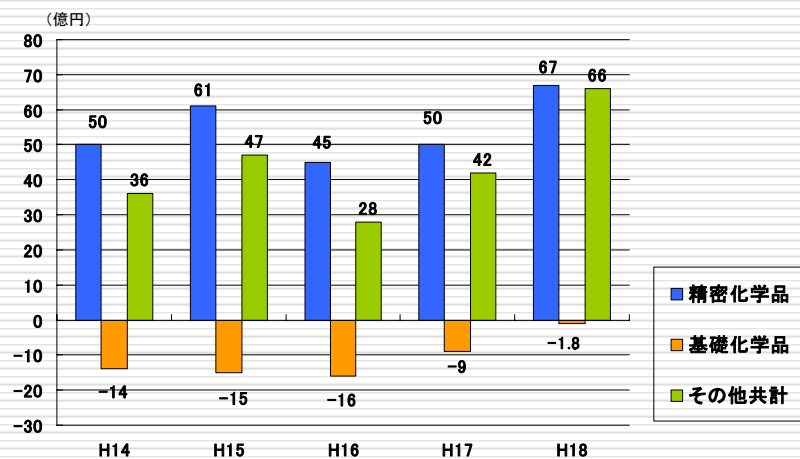
・新規製品であるヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、液晶材料の売上は順調に進展。

・電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、競争の激化により販売価格が低下し、前期に比べ減収。

関東電化工業株式会社

8

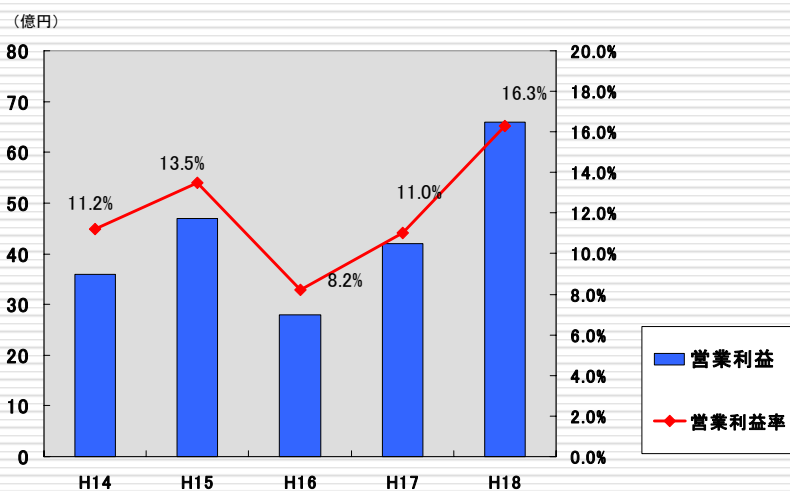
セグメント別営業利益の推移(連結)



関東電化工業株式会社

9

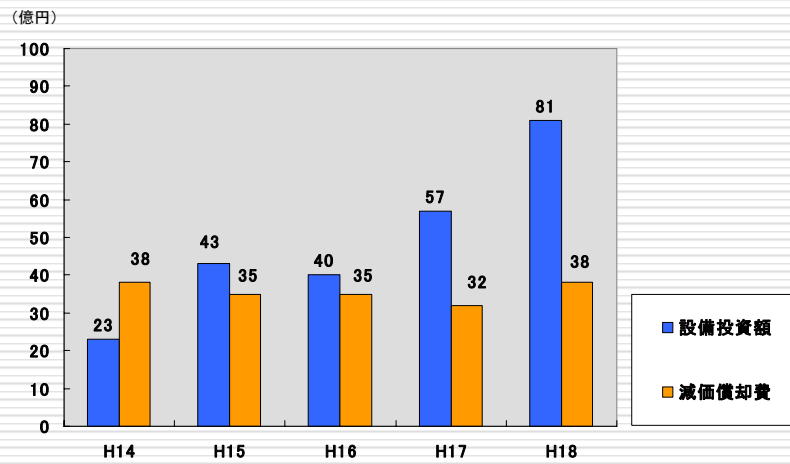
営業利益と営業利益率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

10

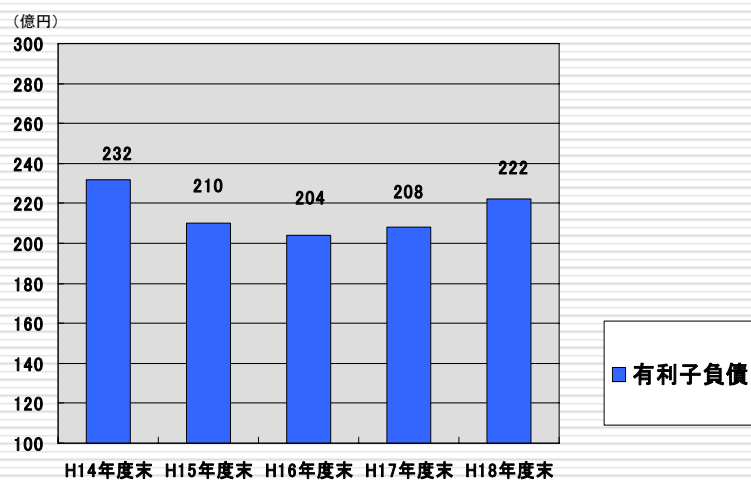
設備投資・減価償却費の推移(連結)



関東電化工業株式会社

11

有利子負債の推移(連結)



関東電化工業株式会社

12

説明内容

1. 19/3決算の概要
- 2. 今後の業績見通し・中期経営計画**

セグメント別業績予想(連結)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	H18	H19	差額	H18	H19	差額
基礎	110	113	3	△2	1	3
精密	274	297	23	67	43	△24
その他	24	25	1	※ 1	1	0
合計	408	435	27	66	45	△21

設備投資	81	110	29	※その他には、連結調整を含みます。
減価償却	38	56	18	
研究開発費	9.5	10	0.5	

H19減益予想となる要因(個別で分析)

(単位:億円)

	H18	H19	差額	
売上高	365	390	25	うち精密が24億円増収
限界利益	198	210	12	高い限界利益率は維持
固定費	136	169	33	
うち減価償却費	38	56	18	渋川工場内にNF3第2プラントを建設。要員を含め初期投資が必要
うち人件費関係	62	69	7	
うちH18期末整理	△5	△1	4	H18が棚卸資産増による期末整理が発生
営業利益	62	41	△21	

関東電化工業株式会社

15

—中期経営計画— 数値目標(連結)

(単位:億円)

	H19	H20	H21
売上高	435	500	550
うち精密化学品	297	362	412
営業利益	45	65	80
経常利益	42	62	77
減価償却費	56	70	69
設備投資額	110	100	60

関東電化工業株式会社

16

—中期経営計画— 基本コンセプト

- この3年間で、次の10年を見据えた新たなステージへの飛躍、成長基盤づくりの期間と位置づけ、「キラリと光る特色ある創造的開発型企业」を目指す。
- 企業目標
 - ① 既存事業の更なる収益力強化
 - ② 当社の強みであるフッ素関連技術を活かした新規製品の創出
 - ③ 企業文化の確立
- サブタイトルである「チャレンジ500」は、売上高目標にとどまらず、「目標に向かってチャレンジしていく企業文化への変革」という意味を込めたもの。

—中計企業目標— 既存事業の更なる収益力強化

- **基礎化学品事業**
フレークか性ソーダの増産、更なるコストダウンを実施。H19に黒字化へ。
- **精密化学品(フッ素系製品ガス)事業**
ユーザーのニーズに合わせた設備投資を今後も実施(NF3はH20年6月に2,150t/年)。あわせて、コストダウンの徹底を図る。
- **精密化学品(電池)事業**
需要増に対応するため、更に競争力のある製造技術の確立を目指す。

—中計企業目標— 新規製品の創出

- フッ素誘導品分野、鉄系微細化分野、塩素系誘導品分野を重点研究分野とし、経営資源を積極的に投入していく。
- 販売と研究が一体となって市場ニーズをいち早く捉えるため、研究開発体制を強化する。
- 産学連携・派遣・留学等の人的交流等、今後も積極的に外部との連携、情報収集を実施する。

—中計企業目標— 企業文化の確立

- 全社的業務改善活動(K-SF3活動)を積極的に推進し、活動内容のレベルアップを図り、コストダウン体制(体質)の強化、安全、環境などの諸施策を推進する。
- 労働安全衛生マネジメントシステムを基本としたPDCAサイクルによるスパイラルアップを図り、関係会社を含めた職場の安全体質を強化する。
- 内部監査室を置き、内部統制の充実を図る。
- RC(レスポンシブル・ケア)目標を着実に実行し、地域、社会に貢献する企業を目指す。

積極的な設備投資

□ 半導体・液晶用特殊ガスの設備増強・拡販

- ① フッ酸電解能力増強(H19.6、H20.6)
- ② 三フッ化窒素設備増強
(H19.9年1,200→1,650t、H20.6→2,150t)
- ③ 六フッ化タングステン設備増強(H19.9→300t)
- ④ 六フッ化硫黄設備増強(H19.9→1,650t)
- ⑤ C4F6設備増強(H19.11→50t)
- ⑥ COF2拡大設備設置(H20.3→100t)

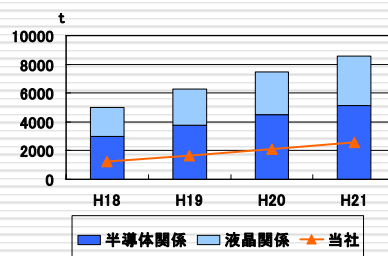
□ その他の設備増強・拡販

- ① 六フッ化リン酸リチウム設備増強(H20年度中)

—主な製品の見通し— 三フッ化窒素(NF3)

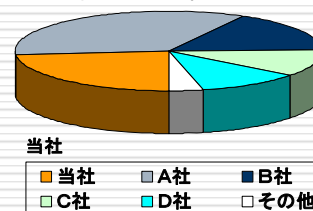
- 半導体・液晶製造装置のクリーニングガス。
- 今後、半導体・液晶の生産量増加に伴い、三フッ化窒素の需要は確実に増加する。
- 需要増に対応するため、製造能力を、H19年9月に1,650tに拡大。さらに、H20年6月に2,150tに拡大する予定。

【販売数量(H19以降は予想)】



【現在のシェア予想】

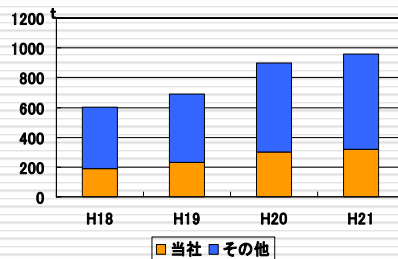
当社シェアは約25%



ー主な製品の見通しー六フッ化タンゲステン(WF6)

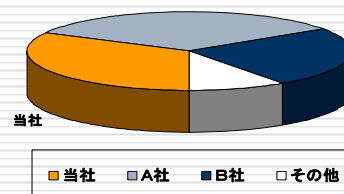
- 半導体用配線材料。
- 今後、半導体の生産量増加に伴い、需要は確実に増加する。
- 需要増に対応するため、H19年9月に製造能力を300tに拡大。

【販売数量(H19以降は予想)】



【現在のシェア予想】

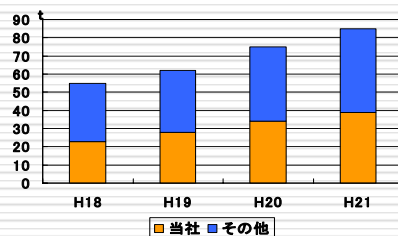
当社シェアは約3分の1



ー主な製品の見通しーヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C4F6)

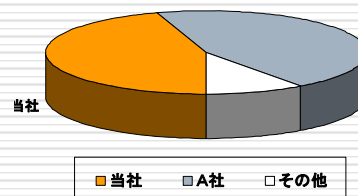
- 半導体酸化膜微細エッチング用ガス。H17年10月に上市。
- 特徴: 高アスペクト比エッチングが可能。短い大気寿命。
- 300mmウエハー工場立ち上げに伴い、需要が拡大している。
- 今後の需要に対応するため、H19年11月に製造能力を50tに拡大。

【販売数量(H19以降は予想)】



【現在のシェア予想】

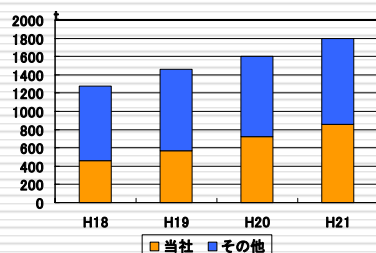
当社シェアは約45%



—主な製品の見通し—六フッ化リン酸リチウム (LiPF₆)

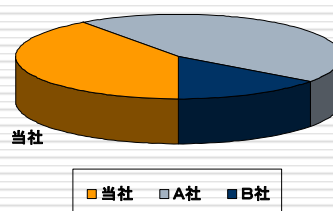
- リチウムイオン二次電池の電解液の材料。
- 今後、携帯電話用電池等の増加に伴い、需要は拡大する。
- また、リチウムイオン二次電池は、車載用として注目されている。

【販売数量(H19以降は予想)】



【現在のシェア予想】

当社シェアは約40%



—主な製品の見通し— FEC (フルオロエチレンカーボネート)

- リチウムイオン二次電池の電解液の添加剤として、H17年10月に上市。
- 性能:リチウムイオン二次電池の長寿命化・低温特性の向上。

【販売数量(H19以降は予想)】

